

連載：[海外] グローバル体験

第1回 米国 広さの体験と多彩な人々との出会い

研究員 杉本 晴重

40年以上前、初めて米国へ行った時の最初の都会はサンフランシスコであった。

当時は、日本から米国へ行くには飛行機の燃料補給のために、アラスカ・アンカレッジを経由した。

アラスカまでは、ほとんど海上を飛ぶが見えるのは海ばかり、アンカレッジを離陸してサンフランシスコまでも見える大きな街は僅か。これが東海岸だと、ニューヨークまでアラスカ、カナダ、五大湖あたりを南下してニューヨークまで、何時間と続く広大な原野や都会が見えない光景である。

以来、米国 50 州のうち 40 州近く旅行したが、東西、南北を移動すると、途中にいくつかの街が見えるが、ほとんどは人がいないところばかり。これが日本では経験出来ない大きさ、広さ、遠さに関する貴重な体験であった。

地図を見て日本と米国を比較しても、広さの差を実感できる人は少ないだろう。やはり実際に行って自分で移動して、しかも自分で努力すればする程、その実感、経験は強く残る。例えば飛行機ではなく列車、自動車、自転車、徒歩になればその実感の度合いは大違い。

もう一つ米国へ行って驚いたのは、アメリカ人と異なる人達、厳密に言うとアメリカ人も知れないが、外見はアジア人、インド人、中国人、ヨーロッパ、中南米、中東、アフリカからの人々など、飛び交う言語も、英語なのか母国語なのか、訛りのある英語なのか、とにかく多彩だ。日本人の自分は全くちっぽけな存在としか思えなかった。

最近ネットが当たり前になり、情報はいくらでもとれる。特にその地へ行かなくても、実際に人と会わなくても、スマホでコミュニケーションは出来ると考える人が多い。しかし実際は、知っているようで何も知らないのではないか。人は時間を飛び越える事は出来ないから、過去の事は人、印刷物や遺物、ネットから知るしかないが、空間を経験し、人と会う事は出来るし、必ず何か違いを感じ、新たに得る事が多いはずだ。

日本人のグローバル化のまず第一歩は、この空間（地域・国）の違いを経験し、日本人とは異なる人々と付き合い、コミュニケーションする事にあると思う。英語はほどほど出来れば後でついてくる。私の米国での最初の驚き、感激が、その後の長い米国を始めとする海外との付き合いの原点となっていると今でも思う。

以上